

# 最低賃金 1,000 円以上 全国一律制度を目指して

NO.3

2014.7.23 発行

東京都文京区湯島 2-4-4  
全労連TEL 03-5842-5611

## 山形 最低賃金ロングランアピール行動

山形県労連と山形県2014年春闘共闘は7月12日、JR山形駅構内の東西自由通路にて、最低賃金の大幅引き上げを求めるロングランアピール行動を行いました。山形県の最低賃金が665円で、1000円以上を要求しており、その差額が335円であることから、3時間35分間の行動に取り組んだものです。

県労連と春闘共闘のメンバー13人が交替で、駅構内を往来する通行人に署名やシール投票を呼びかけました。高校生や青年労働者が署名やシール投票に応じてくれる姿が目立ちました。スケボー仲間という20代の4人組男性は「最低賃金を時給1000円以上に」というのぼり旗に注目し、「賃金を上げるための署名です」と呼びかけると、「これは是非署名しないとイケない」と応じ、4人そろって署名しました。時給700円台でアルバイト生活をおくっているという20代の2人連れの女性は、「700円ではとても厳しい。実家から通っているからよいが、一人暮らしだったらダブルワークしなければならない」と話し、署名とシール投票に応じました。署名は3時間30分ほどで113筆集まり、「時給はいくらまで引き上げてほしいか」を問うシール投票には、「1000円以上」を選んだ人が100人を超え、投票ボードはシールを貼り付けるスペースがなくなるほど満杯となりました。



## 徳島 第1回徳島地方審議会 使用者委員が上げるべきと

第1回徳島地方審議会が7月7日午後3時から開催された。全委員15名が出席。徳島労連から傍聴者8人が参加した。専門部会について、徳島労連は7月1日に公開を要請していたが、審議会は、議事録共に非公開とすることに決定した。

今後のスケジュールは、7月29日に中賃目安が出されることを前提に、7月31日に本審、その後専門部会、8月1日、4日、5日に専門部会を開き、全会一致できなければ5日に本審を開いて答申、8月20日まで異議申出を受け付け、8月21日に異議審を開催し、官報に掲載して10月1日発効とするとしている。審議会では、労使双方全員から意見を聞いた。労側は「物価上昇、消費税増税分を超える引き上げでなければならない。合意事項である早期に800円を実現しなければならない。800円で生活できるものではなく、最賃は生活できる額にしなければならない。企業がつぶれると言うが、賃金が安くて労働者が来なくて仕事ができない状況がでている。労働者あつての企業だ」と主張。

使用者側は「景気回復と言われているが、地方はそんな状況ではない。目安に対する考えも最近では目安にいくらプラスするかと言うようになってきている。目安だからプラマイで考えるべきだ。」との意見が出された。ところが、使用者委員の1人は「私は、できるだけ引き上げるべきだと思っている。会社が潰れば、もともこないが、そのなかでできる限り引き上げるべきだ」と発言した。

## 愛知 使用者委員や中小企業団体中央会と懇談

愛知では7月18日、個人種名、1万4304筆分と、愛労連、医労連、福保労からの意見書を、労働局に提出



しました。介護や医療現場の実態を伝え、「非正規の生の声」を聞くよう、意見陳述の実施を強く求めました。又、7月14日には使用者代表委員の1人と懇談。「冒頭に業界での廃業が多いこと、うちは消費税は価格転嫁できるが、電気代・燃料代が上がったのは大変」と語り、従業員のモチベーションが上がらないから賃上げは少しずつでも必要なことや中小企業の中でも格差が開き、零細企業は借金して設備投資、そして合理化の悪循環がすすんでいること、日本でのモノづくりの重要性を強調しました。

18日の中央会との懇談では、「人手不足でどこも困っている。中小企業も賃上げが必要」と賃金が安いと人が来ないと話され、経営を苦しめている「消費税や外形標準課税」に反対していることが語られました。

## 最低賃金の大幅引き上げで格差と貧困をなくそう！有識者がアピール

7月22日、最低賃金を大幅に引き上げて格差と貧困をなくそうと、貧困問題にとりくむ弁護士や研究者ら有識者が東京都内で「最低賃金アピール」を発表しました。反貧困ネットワーク代表の宇都宮健児弁護士、作家の雨宮処凛（あまみやかりん）さん、龍谷大学の萬井隆令（よろいたかよし）名誉教授ら40人が呼びかけ、同日までに210人が賛同。引き続き、賛同者を募っています。

地域別最低賃金は最高額の東京でも869円、鳥取、高知、沖縄など最低額の9県は664円。2010年の政府「雇用戦略対話」では、経団連と連合も含めて、「早期に全国最低800円、20年までに平均1000円を目指す」と合意されており、その実現を急ぐよう求めています。

宇都宮氏は、「フルタイムで働いても手取りが年100万円から130万円。貧困の解消には最賃の底上げが重要な役割をもっている」とのべ、ドイツが来年から全国一律の最低賃金を導入することも紹介しながら、最賃の大幅な引き上げと地域間格差の是正・全国一律最賃制度の導入、審議会の公開を求めました。

2008年から5年間にわたり鳥取県地方最低賃金審議会会長を務めた、鳥取大学の藤田安一教授も会見に同席し、同審議会では08年から(1)審議会の完全公開(2)意見聴取の実施(3)傍聴の自由化を行っているを紹介。「公開するようになってから、さらに率直な議論がおこなわれるようになった。全国に広まってほしい」と語りました。

今年の中央最低賃金審議会では審議会から排除されている労働組合などからの要求で、公開がひとつの焦点となりましたが、結局、「率直な意見交換が難しくなる」などの理由で密室のまま押し切られています。

宇都宮氏は「決定のプロセスはオープンにされるべきだ」と訴えました。

### —□■ お知らせとお願い

☆最低賃金1000円実現求める個人要請署名と団体要請署名の推進を！

◆各単産・地方組織の取り組みを、全労連まで、お知らせください。

担当：伊藤、阿部、溝口、平川



**最低賃金 1000円以上！全国一律最低賃金の実現を！**